

## 編集後記

今号では、昨年度の客員所員の方々の寄稿があります。高山先生の記事に“朝から晩まで2～3カ月ひたすら繰り返す”が象徴的で目にとまったのですが、コロナ禍の中でも、客員所員となられた先生方が、この機会に研究に打ち込まれる意欲が綴られています。また、本山先生の記事では“オンラインで実験を行いその空気感を読み取ること”が、これからの学生に求められるとの記載がありましたが、コロナ終息後で状況が通常に戻ったとしても、オンラインでの実験は共同利用研として取り組み続ける課題となり、そこには何か血の通った工夫が必要と感じました。昨年度において、コロナ禍での印象的なことの1つが、ISSP ワークショップの報告にある、オンラインによる国際ワークショップです。世界の参加者が参加できるように、日本側が遠慮した(?) 時間設定となった毎晩9時からの会議で、参加人数は5日間での延べ参加人数が1000人を越えて、参加登録者の2/3は海外でした。こちらもコロナ終息後は、オンサイト・オンラインのハイブリッドでの会議運営が通常となると共同利用研として想定しているところです。一方、大学を取り巻く状況に目を転じると、内閣府で10兆円の大学ファンド事業などの議論が進んでいます。大学の法人化からしばらく経ちましたが、大きな波がやってきました。と、こちらも共同利用研として注意深く見守っているところです。

鈴木博之

### 物性研だよりの購読について

物性研だより発行のメール連絡を希望される方は共同利用係まで連絡願います。

また、物性研だよりの送付について下記の変更がある場合は、お手数ですが共同利用係まで連絡願います。

#### 記

1. 送付先住所変更 (勤務先⇄自宅等)
2. 所属・職名変更
3. 氏名修正 (誤字脱字等)
4. 配信停止
5. 送付冊数変更 (機関送付分)
6. メール配信への変更

変更連絡先：東京大学物性研究所共同利用係

〒277-8581 柏市柏の葉 5-1-5

メール：issp-kyodo@issp.u-tokyo.ac.jp